

## 兵庫県立大学学生生活実態調査結果の概要

### 1 調査目的

在学する学生の生活環境や学習環境等の現状を把握することにより、今後の修学支援及び学生生活支援等を検討するための基礎資料とする。

### 2 調査対象

平成25年12月1日現在、当大学の学部及び大学院に在籍する全学生

### 3 調査方法

無記名のアンケートにより、授業・ゼミ等において調査票を配付・回収

### 4 回答数

対象学生6,695人に対し、有効回答数は3,511人、回答率は52.4%。  
(学部生の回答率) 48.2% (大学院生の回答率) 53.1%

### 5 主な調査結果

#### 【家計等に関する調査】

- ・ 半数以上の学生は仕送りや奨学金を受けておらず、アルバイトにより収入を得ている。
- ・ 学部生、大学院生とも平均支出額は平均収入額の範囲内で収まっている。
- ・ 学部生の半数以上は実家等から通学している。

#### 【アルバイトに関する調査】

- ・ アルバイト経験は、学部生(82%)、大学院生(69%)とも第1回調査から減少。
- ・ 職種は、大学院生及び理工系の学部生は「家庭教師・塾等講師」が多く、全体的には「販売・サービス業」が多い。
- ・ 小遣いを得ることを目的にアルバイトをする学生が増加している。

#### 【住居・通学に関する調査】

- ・ 神戸商科キャンパスは電車・バス通学が中心、姫路工学キャンパスは電車・バス以外に自転車、バイク、自動車などの利用も見られる。播磨理学キャンパスは徒歩・自動車を中心となっている。
- ・ 通学時間は、学部生では41%が30分以内であるが、工学部では2時間以上が13%となっており、他学部と比較して遠方から通学している学生が多い。

#### 【生活面に関する調査】

- ・ 15%の学生が交通事故の被害に遭っている。
- ・ 学生生活に関する相談相手は、①友人、②家族、③教職員の順となっている。
- ・ 学生生活に関する情報の入手先は、「学内掲示板」が最も多い。
- ・ ニュースや情報の入手方法は、「テレビ」と「インターネット」が拮抗している。

**【ハラスメントに関する調査】**

- ・ ハラスメントについて「詳しく理解」「ある程度理解」している割合は、学部生 78%、大学院生 85%。
- ・ ハラスメントの相談窓口を知らない割合は、学部生 69%、大学院生 60%。
- ・ ハラスメントを受けたことがある割合は、学部生 4%、大学院生 5%。

**【授業・学習に関する調査】**

- ・ 授業を「理解している」「まあ理解している」割合は、学部生 62%、大学院生 76%。
- ・ 授業が理解できない理由は、「勉強意欲、努力不足」が最も多かった。
- ・ 1日の平均自習時間は、「1時間以上」が学部生 32%、大学院生 63%で、「なし」が学部生 22%、大学院生 11%。
- ・ カリキュラムに対し満足している割合は、学部生 15%、大学院生 28%。

**【課外活動に関する調査】**

- ・ クラブ・サークル活動への参加割合は、学部生 62%、大学院生 22%。
- ・ クラブやサークルに参加していない理由は、「時間がない」が最も多かった。

**【ボランティアに関する調査】**

- ・ ボランティアの経験がある割合は、学部生 32%、大学院生 38%。
- ・ 参加した学生の約8割が「人生（社会）経験が得られた」としている。

**【施設等に関する調査】**

- ・ 充実して欲しい施設としては、「食堂」と「購買部」が最も多い。
- ・ 学術情報館の改善点としては、「図書・雑誌の充実」が最も多く、工学部、理学部、看護学部では、「開館時間の延長」を希望する声も多かった。

**【入学時に関する調査】**

- ・ 現在の学部・研究科に満足している割合は、学部生 77%、大学院生 84%。
- ・ 満足できない理由は、学部生は「講義内容等」、大学院生は「設備等」が最も多かった。理学部、工学部、環境人間学部では「その他（他大学に入学したかった）」を挙げる学生が多かった。

**【進路（進学・就職）に関する調査】**

- ・ 将来就きたい職業は民間が最も多く、希望の勤務地は「兵庫県内」及び「京阪神地域」が半数以上となっている。
- ・ 就職や進学に関する情報の入手先は、インターネットが最も多くなっている。
- ・ 大学院への進学は学部生の68%が希望しておらず、その割合は前回調査より増加している。